

タイ語での三人称表現の使用意識とタイ語教育の課題¹⁾

A fact-finding survey of third-person term usage in Thai and related issues in Thai education programs

スニサー ウィッタヤーパンヤーノン (齋藤)

東京外国語大学 世界言語社会教育センター

Sunisa WITTAYAPANYANON (SAITO)

World Language and Society Education Center, Tokyo University of Foreign Studies

はじめに

1. 調査概要
 2. 調査結果・分析
 - 2.1. カジュアルな場面
 - 2.2. フォーマルな場面
 - 2.3. インタビュー内容
 - 2.4. 調査結果まとめ
 3. タイ語教育における課題
- おわりに

キーワード: タイ語、三人称表現、タイ語教育、タイ語でのポライトネス

Key Words: Thai language, third-person term, Thai education, politeness in Thai language



本稿の著作権は著者が所持し、クリエイティブ・コモンズ表示4.0国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

要旨

本論文はタイ語における三人称表現の使用意識に関する調査結果・分析をまとめ、タイ語教育での課題を検証するものである。タイ語では人称表現が多様に変化するため、円滑なコミュニケーションを行うためには人称表現の適切な運用が重要となるが、その使用意識と現在のタイ語教育での説明には乖離がある可能性があるため、本調査を実施した。三人称表現の選択の際、特に影響が強いのは、年齢差などによる発話者と第三者の上下関係であり、年上の第三者には親族名称が多用されている一方で、同年代や年下を言及する際の三人称表現は多様化している。三人称表現の一部について、現行のタイ語教材の説明では不十分と思われ、タイ語で適切に三人称表現を運用していくための説明を検討していく必要がある。その方法の1つとしてタイ語の社会文化的特性を反映した垂直的ポライトネスと水平的ポライトネスの概念を活用していくことが可能と考えている。

Abstract

This paper aims to present the analytical results of a survey of third-person terms in Thai and to study related issues in Thai education programs. Personal expression is integral for smooth communication in Thai because of the language's inherent diversity. The survey was developed to address the potential discrepancy between the actual usage and coverage of third-person terms in Thai education programs. The results indicate that the vertical relationship between the speaker and the referent, such as disparity in age, are the predominant factors determining third-person term use, and kin terms are most often used with elder referents. On the other hand, third-person terms for coeval and younger referents are more diversified. It may be necessary for educational learning materials to review the explanations of some third-person terms and develop more pragmatic methods to assist learners of Thai as a second language in understanding the usage of third-person terms properly. As one approach, it would be possible to make use of the concepts of vertical and horizontal politeness that reflect the social and cultural features of Thai language.

はじめに

タイ語特有の社会文化的要素として、(1) 社会的立場の確認、(2) 距離を縮める、(3) 配慮表現、(4) コミュニケーション・ストラテジー、(5) 文体の違い、という5つの特徴があるとの分析結果が示され、その中の(1)、(2)、(3)では人称表現(2)の適切な使用が必要だと指摘されている[スニサー 2017b:240-248] 通り、人称表現はタイ語でのコミュニケーションの中で重要な要素である。タイ語の人称表現には人間関係が現れ、相手や状況、及び自身の属性に応じて、それらは多様に変化している。しかしながら、現在のタイ語教育で教えられている人称表現だけでは、タイ語で円滑なコミュニケーション

ンを取るには十分ではない可能性があると考えている。例えば、現在の日本のタイ語教育で広く一般的なものとして教えられている三人称代名詞は [kháw] であり、日本人含め外国人は会話で多用している。しかしながら、本稿でも後述するが、[kháw] を使うのが適切ではないケースもある。例えば、教職者の先生を言及する際に [kháw] を用いることは、タイ語として不適切であり、対話者が発話者に対して悪印象を持つ可能性がある。タイ語では多様な三人称表現を状況に応じて選択する必要があるにも関わらず、現行の教材では人称表現の意味の説明にとどまり、各表現のプラグマティクスの説明まで及んでいるものは少ない。一方、この事例から鑑みるに、人称表現は、それらを適切に運用すれば、円滑な人間関係を構築するには、非常に有効なツールであることを意味している。そこで、外国語としてのタイ語教育の中へ人称表現を適切に織り込むため、それらの使用意識に関するアンケート調査を実施し、本稿はその調査結果の中から三人称表現に絞り、タイ語母国語話者の使用意識を明らかにするものである。

1. 調査概要

今回の調査では2018年9月、タイ国において、タイ語を母語とする580名に対して書面でのアンケート調査を行った。本アンケートでの質問項目は、フォーマル及びカジュアルな場面において、一人称表現、二人称表現については、発話者との年齢差、性別、距離感、社会的立場などが異なる多様なタイプの対話者に対して自身が使用する一人称表現、二人称表現について、そして三人称表現については同様に多様なタイプの第三者を言及する際に、自身が使用する三人称表現を選択し回答する方式で実施しており、回答は複数回答も可としている。選択肢以外の人称表現を使用する場合は、「その他」を選択した上で、具体的な語句の回答のあったものを有効回答としてカウントしている。回答者には、自身の名前、性別、年齢、職業、出身地を任意で記入してもらっているが、回答内容に基づく本調査協力者自身の性別の内訳は、社会人は女性163名、男性103名、その他の性別39名の計305名、大学生は女性139名、男性89名、その他の性別47名の計275名となっている。本調査への協力者が所属する組織としては、カシコン銀行、日泰経済協力協会、カセサート大学、タイ商工会議所大学、チェンマイ大学、コーンケン大学、ナコンラチャシーマー・チャパット大学などがあり、大学に関しては、学生と職員の双方から協力が得られた。また、書面でのアンケート調査を補完する目的で、大学生の回答者275名の内、34名にはインタビュー調査を実施している。本稿は、全体の調査の中から、三人称表現に関する内容に絞って、調査結果をまとめ、分析するものである。

社会人と大学生では、それぞれが置かれている環境が異なることから、異なる調査票を用いている。三人称表現でのフォーマルな場面として社会人は会議、大学生は研究発表とし、カジュアルな場面は社会人と大学生の質問とも共通で友人との会話の場面としている。発話者と第三者の年齢差、職業、役職といった社会的立場、第三者の性別、そして発話者と第三者との親疎といった様々な特性を組み

合わせ、フォーマルな場面を想定した社会人への質問で 26 タイプ、大学生への質問で 20 タイプ、カジュアルな場面を想定した社会人への質問で 30 タイプ、大学生への質問で 30 タイプの第三者を設定し、それぞれの場面で各第三者を言及する際に使用する三人称表現を訊いている。なお、今回の書面アンケートは、一人称表現、二人称表現 / 呼びかけ表現、そして三人称表現に関する総合調査であることから設問数も多く、かつ三人称表現についても第三者の属性が極めて多様であり、回答する際の複雑さを回避するため、第三者の属性に焦点を当てる形での設問設計としており、対話者の種類については敢えて詳細な設定はせず、前述の通りフォーマル及びカジュアルな場面設定のみとしている。選択式回答の選択肢としては、タイ語文法書 “way-yaa-koon thay” [Bandhumedha 2016:26-27] 等の 6 種類のタイ語教材³⁾の中で三人称表現として掲載してある語に加え、筆者の経験に基づき実際の会話で三人称表現として耳にする機会のある語を選定・追加した他、「その他 (要記入)」、「使わない」も選択肢として提示してある。

本調査で選択肢として提示した三人称表現について、今回参照したタイ語教材での説明内容、及び教材内に記載がない内容で筆者が説明を加えたものを一覧にしたものが表 1 となる。

表 1 : 三人称表現の選択肢

	参照教材 ³⁾ での説明
kháw	a. The general word for both “he” and “she”. b. [kháw] is the most common third-person pronoun and is used widely in variety of situations. c. 彼、彼女。最も一般的に使われる中立的なことば。 d. 三人称単数「彼/彼女」 e. 彼、彼女(第三人称の代名詞)。よそよそしい印象。 f. 三人称を表す。敬意レベルは、[thâan]、[kháw]、[kɛɛ]、[man]の順。
thâan	b. [thâan] is used to refer to a highly respected third-person. c. あのかた。社会的な地位がかなり高い人や敬意を表すべき人に対して使用。 f. 三人称を表す。敬意レベルは、[thâan]、[kháw]、[kɛɛ]、[man]の順。
kɛɛ	a. Familiar, used to refer to friends, both male and female. b. [kɛɛ] is employed as a third-person pronoun by some speakers for teachers and other respected people. This same pronoun is also used as an inferior second- and third-person pronoun, e.g. when talking to a servant. c. 彼、彼女。目上の人に親しみを込めて使うことば。 f. 三人称を表す。敬意レベルは、[thâan]、[kháw]、[kɛɛ]、[man]の順となる。[phii+ kɛɛ]の組み合わせの場合、敬意よりも親しみを示す。
man	a. Means “it”, sometimes used to refer to people in a derogatory way. b. [man] is the only pronoun which can be used for non-human and inanimate referents(‘it’). However, when it refers to a human referent, it serves as a non-elegant version of [kháw]. c. あいつ、やつ。軽蔑または親しみを込めていうことば。 f. 三人称を表す。敬意レベルは、[thâan]、[kháw]、[kɛɛ]、[man]の順。
thəə	a. For “she”, sounds more polite than [kháw] b. [thəə] more often than not refers to a female third-person (‘she’). It is a more elegant term compared to [kháw]. f. [khun+thəə]の組み合わせで不快感を示す。
lòn	a. “She” in writing, mostly in novels. f. 女性を言及する際に使用。
naaj	a. A formal title put before the first names of married women, the equivalent of “Mrs”. 【筆者補足】a は三人称表現としての説明ではなく、本来の用法の説明。書面等で既婚女性であることを示すために氏名の前に付加する敬称であるが、近年、本来の用法での使用に加え、独立して三人称表現としても使用される。
ʔii	【筆者補足】かつては女性の名前の前に付加し、親しみを込めた意味で使われていた語であるが、近年では本来の方法は見られず、三人称表現としてのみ使用される。

phii (親族名称)	a. Used to address a person who is older than you are but from the same generation. b. Used not only in the real family structure, but also in a fictitious family structure as well. Use for elder sibling. Regardless of sex. The use of this kin terms instead of pronouns creates a decidedly more informal and friendlier atmosphere. d. 姉/兄/～さん(年上の人の名前に付ける敬称) 【筆者補足】a、b、dとも三人称表現に特定した説明ではなく、人称表現全般としての説明。
chúuu-lên (固有名詞)	b. As in English, names are used to refer to third-persons. d. 自分より年下または親しい友達に対して(対等な立場) 【筆者補足】dについて三人称表現に特定した説明ではなく、人称表現全般としての説明。
chúuu-ciŋ (固有名詞)	b. As in English, names are used to refer to third-persons.
?aa-caan (職業名称)	【筆者補足】両語とも、b、d の中で二人称表現としての説明はあるのに対し、三人称表現としての説明はないが、三人称表現として実際の対話の中で多用されている筆者の経験より選択肢とする。
khun mǎo (職業名称)	

[kháw] は今回参照した全ての教材で三人称表現として取り上げられ、最も一般的な三人称表現として説明がされている。取り上げられている教材の数は [kháw] よりは少ないものの、[thâan] は目上の人に対して最敬礼を示す語として、[kɛɛ] は [thâan] より敬意の程度は下がるものの、親しみの意味を表すことも可能な語として紹介されている。但し、[kɛɛ] の使用範囲について、目上としているものが多いが、友人 [Higbie, Thinsan 2003:2]、目上だけでなく目下にも使用 [Iwasaki, Ingkaphirom 2009 : 52] と説明している教材もあり、説明が一様ではない。[man] は元来モノを指し示す代名詞であるが、非常にカジュアルな三人称表現としても使用されると説明されている。これらの語については発話者や第三者の性別の制限についての言及はないが、[thəə] や [lòn] は女性を言及する場合の語と説明されている。[naaŋ] と [ʔii] は本来の用法はともに女性の名前の前に付ける敬称であり、参照した教材でも三人称表現としての説明はなかったが、筆者の経験より実際の会話で、三人称表現として使用される機会が増加していることから選択肢に加えている。「兄/姉」を意味する親族名称 [phii] は年上の人を指す人称表現全般としての説明ではあるが、この語も筆者の経験より三人称表現としての使用頻度は極めて高いことから選択肢に加えている。固有名詞としては2つの語を選択肢の中に入れていた。

[chúuu-lên] はタイ社会特有の表現で大多数のタイ人は親などが命名する多種多様な「ニックネーム/愛称」を有しており、インフォーマルな場面を中心に使用される人称表現と説明されており、三人称表現としても使用される。一方で、[chúuu-ciŋ] は「本名」を意味する語で、公的書類には [chúuu-ciŋ] を記載する。マラシー & 村上 [2014:193] では、[kháw] はよそよそしい印象があるため、第三者に言及するときには、[kháw] よりも、親族名称、または親族名称+名前(愛称)、あるいは名前(愛称)を使う方が好まれる、とある。今回参照した教材では、職業名称を三人称表現として使用する場面の説明は見当たらなかった。表1で示した教職の「先生」を意味する [ʔaa-caan]、「医者」を意味する [khun mǎo] は、いくつかの教材で二人称表現としての説明はある [スニサー 2019b:176-177] もものの、三人称表現としての説明はない。しかしながら、この語も、三人称表現として実際の対話の中で多用されている筆者の経験より選択肢とした。

2. 調査結果・分析

今回の調査結果の集計に当たっては、次に挙げる7つの視点を複数組み合わせる傾向を観察している。①発話者の性別（男性 / 女性）、②発話者の年齢（社会人 / 大学生）、③第三者の年齢（年上 / 同年代 / 年下）、④第三者の性別（男性 / 女性）、⑤発話者と第三者の親疎、⑥第三者の社会的立場、そして⑦場面（フォーマル / カジュアル）となる。性別として「その他」に分類されるLGBT/SOGIグループについても、今後の予備調査として分析を試みたが、詳細な性別が不明瞭、もしくは非公開としている回答が多く、有効な統計データを得られなかったため、今回の分析対象からは除外することとする。また、回答の際、選択肢として「その他」を選択しながら、具体的な人称表現の記入が無かったものについては、無効回答とする。

本稿では、頁数の都合上、詳細な調査結果を全て掲載することは困難なため、外国語としてのタイ語教育の観点で着目すべき結果が観察できた部分を中心に掲載するものとする。以降の集計結果を示す表中の掲載語は、各回答の中で10%以上の回答率があった語のみとしている。各表中では、3分の1以上つまりは34%以上の回答が得られた語、19～33%の回答が得られた語、10～19%の回答が得られた語の3グループに分類する形で掲載することで、傾向を明示できるよう努めている。

2.1. カジュアルな場面

今回の調査結果については、一人称表現と二人称表現の分析・考察を先行して行っているが、一人称表現、二人称表現ともに、人称表現の選定においては対話者との年齢差と発話者の性別が各人称表現を選定する上で大きな影響を有していることが示された [スニサー 2019a:113、スニサー 2019b:188]。そこで、三人称表現についても、発話者と第三者の年齢差、及び発話者の性別による違いから観察していくこととする。

表2はカジュアルな場面における結果についてまとめたものである。ここで対象としている第三者は、職場や大学など発話者の身近にいる先輩、同年代の友人、後輩を指している。

表2 : 三人称表現 (カジュアル): 発話者と第三者の年齢差

発話者	第三者	主要回答			
		34%以上	20~33%	10~19%	
女性	社会人	年上	phîi+chûuu-lên/ciŋ 81%	---	---
		同年代	chûuu-lên 59%	---	kháw 15% thəə 10%
		年下	chûuu-lên 65%	---	nóŋ+chûuu-lên/ciŋ 10%
	大学生	年上	phîi+chûuu-lên/ciŋ 88%	---	kháw 12%
		同年代	chûuu-lên 51%	man 29%	kháw 16% naaŋ 13% ʔii 11%
		年下	chûuu-lên 62%	---	man 15% nóŋ+chûuu-lên/ciŋ 13% kháw 11%
男性	社会人	年上	phîi+chûuu-lên/ciŋ 75%	---	---
		同年代	chûuu-lên 48%	---	kháw 18% man 13%
		年下	chûuu-lên 54%	---	man 12% kháw 11% nóŋ+chûuu-lên/ciŋ 10%
	大学生	年上	phîi+chûuu-lên/ciŋ 80%	---	kháw 11%
		同年代	chûuu-lên 39%	man 26%	kɛɛ 10%
		年下	chûuu-lên 43%	---	man 16% nóŋ+chûuu-lên/ciŋ 14%

この結果を見ると、発話者と第三者との年齢差によって、三人称表現が大きく異なることが分かる。第三者が年上の場合、全ての発話者グループで [phîi+chûuu-lên/ciŋ] の回答率が7割以上となっており、各発話者グループにおいて [phîi+chûuu-lên/ciŋ] 以外で10%を超える回答があった語は女性・大学生及び男性・大学生で見られた [kháw] の1語のみである。一方で、第三者が同年代や年下の場合、年上の第三者と比較すると回答が多様化している。第三者が年下の場合、全発話者グループで [chûuu-lên] が大多数であったものの、他にも [nóŋ+chûuu-lên/ciŋ]、[man]、[kháw] の4語で10%以上の回答があった。[nóŋ]とは「弟/妹」を意味する親族名称で、名前の前に付けることがあり、「その他」の回答として挙げたものである。さらに第三者が同年代の場合は [chûuu-lên] の回答率が年上、年下に比べて最も低くなるとともに、それ以外の語の回答率も高くなり、各発話者グループ内で10%を超える語は [kháw]、[thəə]、[man]、[naaŋ]、[ʔii]、[kɛɛ] と6語となった。多くの教材で最も一般的な三人称代名詞とされている [kháw] は全ての発話者グループで使用される三人称表現であるものの、いずれのグループでも回答率はそれ程高いものではなかった。

次に表2から発話者の性別による違いを観察してみる。年上の第三者に対しては全発話者グループで [phîi+chûuu-lên/ciŋ] が75%以上の回答率となっており、差異は見られない。一方で、同年代や年下の場合は一部で違いが見られる。第三者が同年代及び年下の場合、全ての回答者グループで [chûuu-lên] の回答が圧倒的に高い比率であるものの、社会人、大学生とも女性の方が10ポイント以上高い回答率となっている。他にも、第三者が同年代の場合には、いずれも10%程

度の回答ではあるが、女性にのみ [thəə]、[naaŋ]、[ʔii]、男性にのみ [kɛɛ] といった発話者の性別特有の語が見られる。

続いて、発話者の年齢による違いを見ていくが、女性の発話者グループについて、34%以上の回答率のある主要回答の語を見ると、大学生と社会人でほぼ同じ傾向となっている。女性の中で大きな差異が見られる点としては、大学生の回答で見られる [man] である。第三者が同年代の場合で29%、年下の場合で15%の回答があったのに対して、社会人では10%以上の回答はなかった。他にも大学生だけに見られた回答として同年代での [naaŋ] (13%)、[ʔii] (11%)、逆に社会人だけに見られた回答として同年代への [thəə] (10%) がある。一方、男性の発話者の年齢差による差異として見られたのは、[man] の回答率が大学生の方が高い点と [kɛɛ] が大学生の対同年代にだけ見られた点である。

次に表2の内訳を精査する形で、第三者の各年齢グループの中での親疎による違いを検証してみた。発話者と第三者の親疎の違いにより同一語の使用率で10ポイント以上の差が表れた部分のみを抽出して表3に掲載している。本稿では10%未満の回答については、表中に記載しないと前述したが、表3は同一語での親疎による対比を示すことを目的としているため、10%未満のものは()内表記として表中に掲載している。

表 3 : 三人称表現 (カジュアル) : 発話者と第三者との親疎

発話者	第三者		主要回答				
			34%以上		20~33%		10~19%
女性	大学生	同年代	親しい	chúuu-lên 49%	man 41%	ʔii 18%	kháw 10%
		親しくない	chúuu-lên 54%	kháw 22%	man 17%	(ʔii) (3%)	
	年下	親しい	chúuu-lên 63%	man 20%	nóŋ+chúuu-lên/ciŋ (kháw) 11%	(9%)	
		親しくない	chúuu-lên 61%	---	kháw 12%	nóŋ+chúuu-lên/ciŋ (man) 12%	(9%)

第三者の親疎の違いとして見られた点としては、女性・大学生が同年代及び年下の第三者を言及する場合のみである。発話者と第三者が親しければ [man] が多く使われる傾向があり、同年代で24ポイント増、年下で11ポイント増という結果となっている。他にも [ʔii] も親しい同年代の第三者には15ポイント増となっている。逆に同年代の親しくない第三者に対しては、[kháw] の回答率が12ポイント高い。これらの結果を見ると、第三者と発話者との親疎は、一定領域ではあるものの、三人称表現の選択への影響は極めて限定的と考えられる。

また、第三者の性別による影響も観察してみたが、10ポイント以上の差がある箇所は見られなく、第三者の性別による影響は、ほぼないと言える。

本項の最後に、表4で職業を含めた社会的立場による影響を見ていくこととする。

表4 : 三人称表現(カジュアル): 特定の職業・社会的立場

発話者	第三者	主要回答					
		34%以上	20~33%	10~19%			
女性	社会人	上司	phii+chúuu-lên/ciη 68%	---	---		
		重役	---	phii+chúuu-lên/ciη 28% thâan 26%	khun+chúuu-lên/ciη 11%		
		大企業社長	---	thâan 33% khun+chúuu-lên/ciη 22%	kháw 14% chúuu-ciη 14%		
		芸能人	chúuu-lên 59%	---	kháw 19% chúuu-ciη 13%		
		芸能人・子供	chúuu-lên 62%	---	nóonη+chúuu-lên/ciη 14% chúuu-ciη 12%		
		医者	khun mǎo 87%	---	---		
		首相	thâan 52%	---	chúuu-ciη 17%		
		大僧正	thâan 61%	僧侶を表す語 26%	---		
		大学生	大学職員	phii+chúuu-lên/ciη 67%	kháw 24%	---	
			大学教員	?aa-caan 92%	---	---	
	学長/理事長		?aa-caan 40%	thâan 26% kháw 21%	---		
	芸能人		chúuu-lên 53%	kháw 33%	naaη 16% chúuu-ciη 15%		
	芸能人・子供		chúuu-lên 57%	kháw 20%	nóonη+chúuu-lên/ciη 18%		
	医者		khun mǎo 86%	---	---		
	首相		thâan 40%	kháw 22% chúuu-ciη 21%	---		
	大僧正		thâan 71%	僧侶を表す語 21%	---		
	男性		社会人	上司	phii+chúuu-lên/ciη 46%	---	hũa-nâa +chúuu-lên/ciη 13%
				重役	---	phii+chúuu-lên/ciη 24%	thâan 19%
		大企業社長		---	thâan 27% chúuu-ciη 23%	kháw 15% khun+chúuu-lên/ciη 15%	
		芸能人		chúuu-lên 45%	kháw 21%	chúuu-ciη 19%	
芸能人・子供		chúuu-lên 45%		---	kháw 15% chúuu-ciη 15%		
医者		khun mǎo 75%		---	---		
首相		thâan 52%		---	chúuu-ciη 18%		
大僧正		thâan 55%		僧侶を表す語 23%	---		
大学生		大学職員		phii+chúuu-lên/ciη 64%	---	kháw 15%	
		大学教員		?aa-caan 85%	---	---	
		学長/理事長	?aa-caan 42%	thâan 28%	kháw 10%		
		芸能人	chúuu-lên 53%	kháw 24%	chúuu-ciη 13%		
		芸能人・子供	chúuu-lên 39%	---	kháw 18% nóonη+chúuu-lên/ciη 10%		
		医者	khun mǎo 74%	---	---		
		首相	thâan 40%	---	kháw 15% chúuu-lên 12%		
		大僧正	thâan 57%	---	kháw 10%		

まず、職業の中で、教職者と医者については、全ての発話者グループで7割以上が職業名称を三人称表現として使用すると回答しているが、これは二人称表現で見られた傾向と同様の結果である [スニサー 2019 b :189]。教職者や医者は社会役割としては、タイでは社会通念的に上位に位置しており、年齢に関係なく職業名で呼ぶことで敬意を示すことが言語的規範として存在しており [スニサー & 富盛 2019]、三人称表現においてもこれが該当することを示している。[thân] は社会的立場が極めて高い人物を対象に二人称や三人称として使用される語であるが、今回の調査結果を見る限り、三人称としては大学や企業のトップ、首相といった世俗的な高位の人よりも、高僧を言及する際により多く選ばれる結果となっている。また、表2では見られなかった [khun+chûuu-lên/ciŋ] という語が重役や大企業社長を対象とした回答に見られる。これは「その他」としての回答となるが、[khun] とは対象の年齢や性別を問わず名前の前に付ける敬称となり、三人称だけでなく、二人称としても使われる語である。他にも、「その他」の回答として10%以上の回答があったものでは、男性・社会人の対上司で見られる [hûa-nâa+chûuu-lên/ciŋ] があるが、[hûa-nâa] とは「上司」を意味する語で、発話者と第三者の関係を示す敬称となる。芸能人は大学や企業のトップ、首相や高僧と同様、発話者や対話者と直接知り合いではないが、社会的立場は発話者と同レベルの想定で調査に組み入れてみたが、[chûuu-lên] が多用されている。また、表2で示した身近な人よりも [khâw] の回答率が高い。対象としている芸能人の年齢は不明であるが、表2で示された身近な年上の第三者に対して多用する [phii] を含んだ語を使用する回答はあまり見られなかった。

2.2. フォーマルな場面

本項はフォーマルな場面での調査結果となるが、フォーマルな場面に関しては、より多様な立場の人物への三人称表現を調査目的として設問を設計した。そのため、フォーマルな場面の設問では、設問数の点から、第三者と発話者の年齢差を明確に定義した第三者は限定的となったため、第三者と発話者の年齢差についての考察はここでは行わず、第三者の社会的立場に応じた特徴に焦点を当てていくことにする。表5が女性の発話者グループ、表6が男性の発話者グループの回答結果をまとめたものである。

表5 : 三人称表現 (フォーマル): 女性

発話者	第三者	主要回答								
		34%以上		20~33%以上		10~19%				
女性	社会人	同僚	chúuu-lên	49%	chúuu-ciŋ	21%	thəə	10%		
		上司	phii+chúuu-lên/ciŋ	50%	---		chúuu-ciŋ	14%	khun+chúuu-lên/ciŋ	13%
		自社の重役・社長	---		thâan	khun+chúuu-lên/ciŋ	33%	28%	chúuu-ciŋ	19%
		取引先の重役・社長	---		thâan	khun+chúuu-lên/ciŋ	33%	28%	chúuu-ciŋ	19%
		取引先のマネージャー	---		khun+chúuu-lên/ciŋ	phii+chúuu-lên/ciŋ	28%	24%	thâan	15%
		取引先の社員	---		khun+chúuu-lên/ciŋ	chúuu-lên/ciŋ	31%	26%	kháv	10%
		顧客	khun+chúuu-lên/ciŋ	37%	chúuu-ciŋ	26%	kháv	13%		
		医者	khun mǝ	88%	---		---			
		首相	thâan	61%	---		chúuu-ciŋ	14%		
	大僧正	thâan	60%	僧侶を表す語	29%	---				
	大学生	大学職員	phii+chúuu-lên/ciŋ	57%	---		kháv	19%	chúuu-ciŋ	16%
		大学教員	ʔaa-caan	92%	---					
		学長/理事長	thâan	52%	ʔaa-caan	33%	---			
		大企業社長	thâan	44%	kháv	21%	chúuu-ciŋ	21%	khun+chúuu-lên/ciŋ	12%
		首相	thâan	62%	chúuu-ciŋ	22%	kháv	10%		
		医者	khun mǝ	87%	---		---			
大僧正		thâan	76%	---	21%	僧侶を表す語	19%			

表6 : 三人称表現 (フォーマル): 男性

発話者	第三者	主要回答												
		34%以上		20~33%以上		10~19%								
男性	社会人	同僚	chúuu-lên	40%	chúuu-ciŋ	20%	kháv	18%						
		上司	phii+chúuu-lên/ciŋ	35%	---		chúuu-ciŋ	19%	thâan	13%	hũanaa+chúuu-lên/ciŋ	13%		
		自社の重役・社長	---		thâan	28%	chúuu-ciŋ	20%	khun+chúuu-lên/ciŋ	19%	phii+chúuu-lên/ciŋ	14%	kháv	12%
		取引先の重役・社長	---		thâan	26%	chúuu-ciŋ	22%	khun+chúuu-lên/ciŋ	19%	phii+chúuu-lên/ciŋ	15%	kháv	14%
		取引先のマネージャー	---		chúuu-ciŋ	27%	phii+chúuu-lên/ciŋ	18%	thâan	18%	khun+chúuu-lên/ciŋ	18%		
		取引先の社員	---		chúuu-ciŋ	31%	kháv	19%	khun+chúuu-lên/ciŋ	19%	phii+chúuu-lên/ciŋ	17%		
		顧客	---		khun+chúuu-lên/ciŋ	29%	kháv	17%	phii+chúuu-lên/ciŋ	15%				
		医者	khun mǝ	73%	---		---							
		首相	thâan	53%	---		---							
	大僧正	thâan	52%	僧侶を表す語	29%	---								
	大学生	大学職員	phii+chúuu-lên/ciŋ	61%	---		kháv	12%	chúuu-ciŋ	10%				
		大学教員	ʔaa-caan	87%	---		---							
		学長/理事長	thâan	44%	ʔaa-caan	42%	---							
		医者	khun mǝ	82%	---		---							
		大企業社長	thâan	39%	kháv	21%	chúuu-ciŋ	19%						
		首相	thâan	63%	---		chúuu-ciŋ	16%						
大僧正		thâan	67%	---		ʔaa-caan	10%							

まず、注目すべき点としてはカジュアルな場面と同様、最も一般的な三人称代名詞とされる [kháw] よりも、対象に応じて [khun] や [phii] といった敬称を付加しつつ、ニックネームである [chúuu-lên] や本名を意味する [chúuu-ciŋ] といった固有名詞の方がより多く使われているという点である。但し、企業のトップや首相、高僧といった社会的地位が高い第三者には、最敬礼を表す三人称代名詞 [thâan] の回答率が高い。また、社会人の回答を見ると男性、女性とも「自社の重役・社長」、「取引先の重役・社長」では [thâan] と [khun+chúuu-lên/ciŋ] の回答率がほぼ同じであり、自社と取引先で差がない結果は興味深い。カジュアルな場面設定(表4)との比較で観察できる点としては、社会人で第三者を上司とする場合の回答の中で [phii+chúuu-lên/ciŋ] の回答率がフォーマルの方が低い点がある。女性で18ポイント減、男性で11ポイント減となっている。教職者や医者については、カジュアルな場面と同様、職業名とした回答が大多数である。

2.3. インタビュー内容

これまでの調査結果は、書面調査に基づくものであるが、34名の大学生には、書面調査を補完する目的でインタビューも行ったので、そこで得られた主要な意見を本項では紹介したい。

三人称表現に関する内容で最も多く聞かれた意見としては、日本人に限らず外国人の多くが [kháw] を多く使うことである。文法的には間違いではなく、誰を指しているかは明白ではあるものの、特に親しい人や目上の人に対して [kháw] を使い過ぎるのは、外国人話者であったとしてもあまり心地好いものではないという意見が聞かれた。例えば、大学に来ている外国人留学生が大学の先生のこと言及する場合 [kháw] を使用すると、例え先生がその場にいなくても先生に対して敬意を示してない印象となり、強い違和感を感じるという。また、親しい間柄の友人を言及する際に [kháw] を使用すると、発話者とその友人に対して怒っている、発話者と友人の仲が悪い状態であるといった誤解を持った経験もあるといった声も聞かれた。

2.4. 調査結果まとめ

今回の調査で明らかになった点として、まず多くの教材で最も一般的で汎用性がある三人称代名詞と説明されている [kháw] を使用するケースは限られており、三人称表現としては固有名詞の方が多く用いられるということである。[kháw] は確かに中立的かもしれないが、インタビュー内容も鑑みるに、非常に無機質な印象となり、文脈によっては対話者に悪印象をもたらす危険性があると考えられる。そして、固有名詞を使用する際は、第三者と発話者の関係性に応じて、[phii] や [khun] などを付加し、適切なポライトネスを示すことが必要となる。タイ語において一人称表現や二人称表現では相手との親疎による距離のポライトネスだけでなく、上下関係を示すポライトネスも重要となり、スニサー & 富盛 [2019] の中では、相手との距離に関するものを「水平的ポライトネス」、上下関係に関するものを「垂直的ポラ

トネス」と呼んでいる。今回の調査結果を見る限り、第三者が年齢や社会的立場によって、垂直関係で発話者より上に位置する場合は、[phî+chûuu-lên/ciŋ]、[thâan]、[ʔaa-caan]、[khun mǎɔ]といった語がカジュアル / フォーマルの場面を問わず多く用いられており、三人称表現でも目上の人には敬意つまりは垂直的ポライトネスを示す表現を用いることが求められる。また、社会人の回答で、自社・他社の社長に関する回答について、差異がなかったことから、内外問わずにタイ語のポライトネスは上下の関係を適切に示すことが言語的規範としてある可能性があると考えられる。

また、[thəə]について、一部教材では女性を言及する場合に使用する三人称表現とされているが、社会人・女性の回答では、第三者の性別による使用意識の差が見られなかったことから、男性を言及する場合でも使用していることが分かる。一方で、[thəə]を使用する発話者について、各種教材では特に説明はないが、今回の調査で[thəə]を使用すると回答した男性はほとんどおらず、[thəə]は女性が使う傾向が強い三人称表現とみなすことができる。[kɛɛ]については、目上の人への親しみを込めた三人称表現という説明が主であったが、今回の調査で10%以上の回答があったのは、男性・大学生が同年代の第三者を言及する場合のみであった。なお、[thâan]は最敬礼を示す必要がある第三者、そして[man]はカジュアルな場面で同年代や年下の第三者を言及する場合にのみに用いられており、教材での説明通りである。なお、文語表現[lòn]については、今回の調査では対話場面を想定している設問のみであることから、回答はほとんど見られなかったと思われる。

女性・大学生が同年代を言及する場合のみであるが、現在のタイ語教材では取り上げられていなかった[naaŋ]と[ʔii]についても、それぞれ16%、13%の回答があった。[naaŋ]と[ʔii]は元来、女性の名前の前に付ける敬称であったが、三人称表現として使用される場合は第三者の性別は特に影響のない結果でもあった。但し、発話者という点では、若い女性だけで見られた回答となる。

「先生(教職)」や「医者」など、一部の職業や役職については、三人称表現として、職業名を使用することが最も適切であるということも確認できたものと考えている。

3. タイ語教育における課題

タイ語の三人称表現は多様で、かつ文脈に応じて複雑な運用をすることが求められるため、三人称表現を適切かつ有効にタイ語教育に織り込んでいくためには、いくつかの課題があると捉えている。

まず外国語教育として教えるべき三人称表現の精査が必要であると考えている。三人称表現の中には、使用方法を誤ると大変失礼となる表現もあるので、アンケート調査などの結果での使用例や頻度を理由に全てをタイ語教育の中に織り込む必要はない。むしろ「何を」「どのよう

に」教えるべきかが重要であり、これについては今後慎重な検討が必要となる。また、三人称表現として使用可能な職業名については「(学校の)先生」や「医者」は最も代表的なものだが、他の職業名や役職名などの代名詞代用表現についても追加調査し、三人称表現として推奨されるもの、もしくは許容されるものを確認する必要がある。

タイ語教育の中で三人称表現として教える語彙を検証した上で、それらの語彙を「どのように」教えるかも重要となるため、教材や教育メソッドの開発も大きな課題となる。今ある教材は三人称表現も含めた人称表現・呼称表現については意味の説明だけにとどまるものが大半を占めている。しかしながら、人称表現・呼称表現の語彙の意味に加え、各語彙の使用方法も十分に説明しなくてはならない。例えば、[kháw]を一般的な三人称表現、つまり「彼/彼女」といった情報・説明だけにに基づき、学習者が実際のタイ語でのコミュニケーションの中で[kháw]を運用していくと誤解を招いてしまう危険性がある。また、Iwasaki & Ingkaphriom[2009:52]は、タイ語での三人称代名詞の選択に影響をもたらす重要な要素としては、フォーマリティのレベルと(発話者や対話者の性別ではなく)対象者の性別であるとしているが、今回の調査結果から見る限り、必ずしもそうではないケースも見られた。一例として、前述の通り、表2中で見られた[thəə]、[naaŋ]、[ʔii]は発話者が女性の場合にのみ現れた回答であり、発話者の性別が影響していると考えられる。また、少なくとも対象者の性別の影響については、調査結果を見る限りでは、極めて限定的なものであった。今回参照した教材の中で、三人称表現としては、三人称代名詞の[kháw]よりも固有名詞が好んで使われるという点について説明があるのはマラシー&村上[2014:193]のみであるが、それもコラムの中の説明であり、他の教材では三人称代名詞の意味を説明するだけにとどまっており、三人称表現のプラグマティクスの側面での説明が十分ではないと考える。そこで、学習者が三人称表現も含めた人称表現をタイ語におけるコミュニケーションで効果的に運用していけるようにするためには、単に人称表現の意味の説明だけでなく、学習者にタイ語の社会文化的特質も踏まえたポライトネス機能を援用して、タイ語文生成に働くメカニズムを理解させることが有効と考えている。タイ語におけるポライトネスをいかに簡潔に分かり易く説明するかは大きな課題であるが、その試みの1つとして、今回の調査結果に基づき一人称表現、二人称表現では各語の使用範囲について垂直的ポライトネスと水平的ポライトネスを示した概念図を用いながら説明することを提案している[スニサー、富盛 2019]。図1は一例として年上の対話者に対する二人称表現の使用範囲を図式化したものとなる。二人称表現の場合、発話者の位置は縦軸と横軸の交差点に位置することとなるが、発話者との上下関係を縦軸で示し、親疎を横軸で示している。例えば、図1の中で「おじさん/おばさん」を意味する親族名称[luj/paa]は、発話者と年齢差が大きく、かつ親しい対話者が使用範囲であることを意味している。この概念図については、教育現場で試験的に導入しているが、学習者の理解度の把握、学習到達度への相関性など実証実験と還元をしながら、検証作業を行い、別途報告したいと考えている。

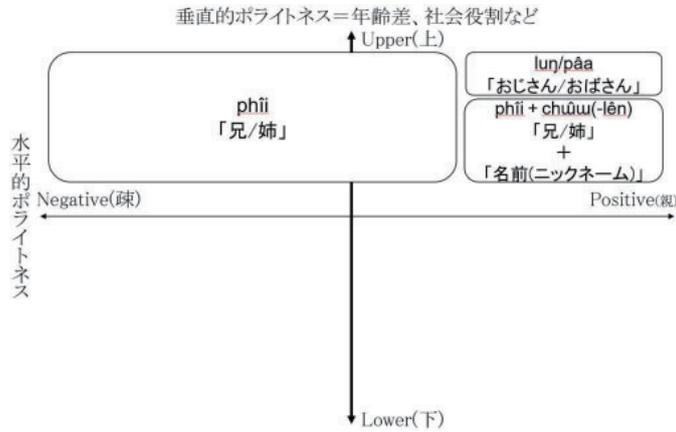


図1：【対話者が年長者の場合】 タイ語の二人称表現におけるポライトネス構造概念図

そして、一人称表現や二人称表現だけでなく、三人称表現についても、タイ語特有の垂直的ポライトネスと水平的ポライトネスの概念を認識しながら、様々な三人称表現の使用範囲を簡易的に図式化して説明することが有用と思われる。三人称表現についても、今回の調査の中で、表2及び表3の中、つまりはカジュアルな場面での先輩、同年代の友人、後輩を第三者として言及する場合の回答で20%以上の回答があった[phii+chûuu-lên/ciŋ]、[chûuu-lên]、[man]、[kháw]の4語について本概念図を用いながら、説明を試みると図2の通りとなる。なお、図2においても、図1と同様、発話者の位置は縦軸と横軸の交差上に位置している。図2では、親疎に関わらず対象が年上であれば広く[phii+chûuu-lên/ciŋ]を、年下であれば全般的に[chûuu-lên]を使うのに対し、同年代の場合は[chûuu-lên]は第三者との親疎に関わらず使用するものの、[man]は第三者と親しい場合、逆に[kháw]は親しくない場合に限られるという各語の使用範囲を簡易的に可視化している。こういったツールを活用することで、学習者が状況によって多様な三人称表現を適切に運用していくことがより容易になっていくものと考えられる。

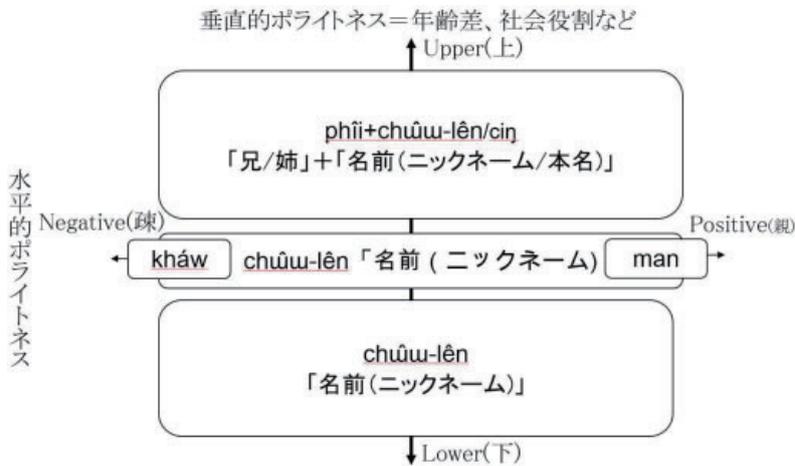


図2：【カジュアルな場面】 タイ語の三人称表現におけるポライトネス構造概念図

おわりに

本稿の元になっている2018年9月に実施した調査は、三人称表現だけでなく、一人称表現、二人称表現/呼びかけ表現を含めての総合的な調査であり、全体の質問数が多い。そのため、三人称表現において複雑な調査を行うことは避け、発話者と第三者の関係性に焦点を当てた調査としているため、対話者も含めた三者の関係性は本調査では明らかにできていない。一人称表現、二人称表現の場合では発話者と対話者の関係性を示すだけでよいが、三人称表現では発話者、対話者、第三者の関係性を示すことが必要となり、図2とは異なるイメージが必要になる可能性もあると想定している。特に三者の上下関係が、上から、対話者、第三者、発話者の順となっている図3のような関係性の場合、三人称表現は発話者もしくは対話者のどちらの視点での表現となるかなど、多様なケースを観察していく必要がある。

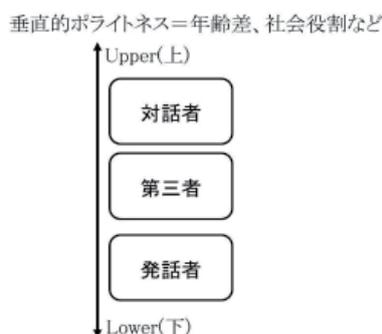


図3：第三者との上下関係が発話者と対話者で異なる

タイ語の人称詞・呼称表現は言語形式の数が多く、学習者にとって使用法は複雑で難しいかもしれないが、逆の見方をすると、適切に運用できれば、円滑な人間関係を構築するための非常に有効なツールとなり得る、タイ語教育において極めて重要な素材であろう。それゆえに、現在検討を進めているヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)に類するタイ語版の到達度目標の1つとして人称表現の運用能力についても、織り込んでいきたいと考えている。[スニサー 2017a:184]

注

- 1) Acknowledgements; This work was supported by JSPS KAKENHI Grant Numbers JP18H00686, JP17H02331 and JP20H01255. My gratitudes are due to Assoc. Prof. Dr. Bussaba Banjonmani, Asst. Prof. Dr. Oradol Kaewprasert, Asst. Prof. Walaiporn Kanjanakaroorn, Dr. Winai Jamornsuriya, Ms. Patra Phamornsinsinlapatham and Ms. Somjay Wattanabanjerd who supported this survey and all the people who answered this questionnaire. Last but not least, my thanks are due to the anonymous reviewers of the bulletin for their valuable advice and comments.

- 2) 本稿では次に挙げる(1)～(4)を、まとめて「人称表現/呼びかけ表現」と呼ぶこととする。(1) 人称代名詞 personal pronoun 例)[chán] [kháw]、(2) 親族名称 kin term 例)[phii] 年上への呼称「兄・姉」[nóŋ] 年下への呼称「弟・妹」、(3) 愛称、名前などの固有名詞 personal names 例)[chúuu-lên] 「ニックネーム」、(4) 職業名称 occupational titles 例)[khruu] 「(教職の)先生」 [mǎw] 「医者」。(2)～(4)は文脈により一人称/二人称/三人称として使用される。
- 3) 引用元は、参考文献にある次の教材となる。a=“Thai reference grammar : the structure of spoken Thai (Higbie, Thinsan 2003)”、b= “A Reference Grammar of Thai (Iwasaki, Ingkaphirom 2009)”、c= 『タイ語の基礎 増補新版 (三上 2014)』、d = 『表現を身につける初級タイ語 (スニサー 2016)』、e= 『タイ語 (世界の言語シリーズ) (マラシー、村上 2014)』、f= “way-yaa-koon thay (Bandhmedha 2016)” なお、fは筆者和訳で掲載している。

参考文献

- スニサー ウィッタヤーパンヤーノン 2016 『表現を身につける初級タイ語』 三修社
- スニサー ウィッタヤーパンヤーノン 2017a 「CEFRを参照とした日本人タイ語学習者向け教材に関する考察—外国語としてのタイ語教育スタンダード開発に向けて—」『東京外国語大学論集』 No.94 pp.169-188.
- スニサー ウィッタヤーパンヤーノン 2017b 「タイ語教育における CEFR 適用に向けたタイ語特有の社会・文化的要素に関する考察」『東京外国語大学論集』 No.95 pp.233-252.
- スニサー ウィッタヤーパンヤーノン 2019a 「タイ語での一人称表現に関する意識調査とタイ語教育での課題」『外国語教育研究』外国語教育学会紀要 No.22 pp.99-117
- スニサー ウィッタヤーパンヤーノン 2019b 「タイ語での二人称表現に関する意識調査とタイ語教育での課題」『東京外国語大学論集』 No.99 pp.173-191
- スニサー ウィッタヤーパンヤーノン、富盛伸夫 2019 「タイ語教育における社会文化的適切性と CEFR への適用—ポライトネス理論の視点から見た人称詞・呼称表現を中心に—」外国語教育学会 (JAFLE) 第 23 回研究報告大会 2019 年 12 月 14 日
- 三上直光 2014 『タイ語の基礎 増補新版』 白水社
- 宮本マラシー、村上忠良 2014 『タイ語 (世界の言語シリーズ)』 大阪大学出版会
- Bandhmedha, Navavan 2016 “*way-yaa-koon thay*” Bangkok. Chulalongkorn University
- Dryer, Matthew S. & Haspelmath, Martin (eds.) 2013 “*The World Atlas of Language Structures Online*” Leipzig: Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology
- Higbie, James & Thinsan, Snea 2003 “*Thai reference grammar: the structure of spoken Thai*” Bangkok. Orchid Press
- Iwasaki, Shoichi & Ingkaphirom, Preeya 2009 “*A Reference Grammar of Thai*” Cambridge. Cambridge University Press
- McCready, Elin 2019 “*The Semantics and Pragmatics of Honorification: Register and Social Meaning*” Oxford. Oxford University Press